

「炎上へりに放射性物質」の記事について
京都新聞 2017年10月15日 朝刊29面

標記の記事において、量子科学技術研究開発機構明石執行役の発言に関し、誤解を与えるような記載が見受けられました。

量子科学技術研究開発機構で調査した結果、当該記事には、明石執行役の発言でないにも係わらず、明石執行役の発言であるかのような表現になっている箇所があります。詳細は以下に示します。

○記事には、量子科学技術研究開発機構の明石執行役の話として「測定が正しいという前提だが、仮に土壌1平方メートルをはぎ取って体内に取り込んでも人体にほとんど影響がないレベル。ストロンチウム90は自然界にはほとんどなく、炎上したヘリコプターの影響で汚染した可能性はあるが、これだけ微量だと工場などで保管していたものが飛散したなど他の影響も考えられる」と記載されています。

○10月14日(土)、共同通信社原子力報道室の記者から明石執行役に対して、琉球大学の矢ヶ崎名誉教授が示した「墜落現場近くの土壌から81Bq/m²のβ線を検出」に対するコメントを求めるメールがありました。

○これに対し明石執行役は、記者が示した現場周辺の地図や写真を参考に、放射線を測定した現場とヘリコプターの墜落現場の距離が近いことから、「ストロンチウム90がどこから出たものか解らないが、測定が正しいとすれば、ヘリコプターから出た可能性はある」と記者に電話で回答しました。

○加えて明石執行役は、「フォールアウトも含めて、どこからか飛んできた可能性も否定できない」とも回答しましたが、記事中の「工場などで保管していたものが飛散したなど他の影響も考えられる」というような発言はしておりません。

以上